

横浜みどりアップ計画市民推進会議 第10回「緑をつくる」施策を検討する部会 会議録	
日 時	平成30年3月2日（金）午後2時00分～4時00分
開 催 場 所	関内中央ビル6階協議室
出 席 者	池田委員、池邊部会長、長瀬委員、若林委員（五十音順）
欠 席 者	網代委員
開 催 形 態	公開（傍聴0人）
議 題	1 横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について 2 その他
議 事	<p>（事務局） ただいまから第10回の横浜みどりアップ計画市民推進会議「緑をつくる」施策を検討する部会を開催いたします。</p> <p>まず、本日の会議の成立についてご報告をいたします。この会議ですが、横浜みどりアップ計画市民推進会議の運営要綱の第5条第2項の規定によりまして、半数以上の出席が成立に必要になっておりますが、この部会、定数5名のところ4名ご出席になっておりますので、会は成立しておりますことをまず報告いたします。</p> <p>同じくその要綱の第9条によりまして、この会議は公開になっております。本日の会議録につきましても公開とさせていただきます。</p> <p>それでは以降、議事の進行につきましては部会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。</p> <p>（池邊部会長）先月の本会の際に、進士会長から、うちの部会に少し宿題をいただいていたしまして、その1つが、緑化フェアの記述や、今日ご紹介いただく報告書内の評価・提案のあたりを中心に話しさせていただきますと思います。</p> <p>この「緑をつくる」という部会は、もともと農地や樹林地に比べますと、当初は地味でしたが、最近になりまして、地域緑のまちづくりなどが非常に盛んになってきたということ、ありがたく思っております。今日もそのあたりを中心に皆さんに取組の成果についての議論していただければと思います。</p> <p>早速ですが、次第の1番に移りたいと思います。緑をつくる事業の評価の部分について、事務局からご説明お願いいたします。</p> <p>（事務局） （事務局説明）</p> <p>（池邊部会長） 今、実績が提示されましたが、幾つか目標と実績が「推進」というあたりも議論になっていたと思いますけれども、まずは皆様方からご意見と質問をお受けしたいと思います。</p> <p>（若林委員） 今、部会長がおっしゃったように、手元の資料ですと、推進や制度運用となっていますけれども、昨年の報告書ではちゃんと数字入っていますよね。最終的には変わるということですね。</p> <p>（池邊部会長） そうですね、名木古木なども全部入るんですよ。</p> <p>（事務局） はい。名木古木で言うと新規指定何本とします。</p>

(若林委員) 変わるという前提ですね。  
名木古木の保存も目標は推進でしょう。進捗状況は数字入っているんですよ。

(事務局) 進捗状況としては数字が入ります。

(池田委員) そうすると、名木古木の場合は実質何本というのが入るようですが、他の取組で実績が推進になっていて、数字が入らないところはありますか。

(池邊部会長) いきいきとした街路樹づくりは相変わらず18区で推進ですか。

(事務局) 昨年で言いますと、3か年で一応325路線としており、今年度も路線数を記載します。

(池田委員) それくらいしか言い表せられないよね。ただし、長い路線の一部でもやれば1路線という実績になる。見た目で、実際はどうなのかなという部分もあるので。横浜市全体広いから、みなとみらいのどこなんかみたいに、集中的にやれば、誰にでも変わったなというのがわかるのだけど、18区を均等に分けちゃうと、それぞれの道路で本当に取り組んだのとなっちゃいますよね。それがちょっとつらいところですね。

(池邊部会長) そういった意味では、さっきの名木古木の選定だとか、あと、この街路樹づくりのすかし剪定なんかも、なかなか専門的な人はわかるかもしれませんが、これだけだと計画的な剪定が何を意味しているのかがわかりにくいかもしれませんね。

(池田委員) 2いきいきとした街路樹づくりだけど、平成23年と、5年たった28年とどこが違うの。今の写真だと、お金かけた甲斐があるかわからないと市民に言われると、ちょっとつらい部分があります。よく見れば、こんなに枝葉が混み入っていたのが、これだけすかしてきれいになっている。私は専門家だからわかるけれど、一般市民にはわからないと思うので、もっとビフォー・アフターがわかる写真がよかったかな。

(池邊部会長) 計画的な剪定を、「すかし剪定」といった言葉に替えてもいいのかなと思うんですけど。

(池田委員) そのほうが具体的で、わかりますね。

(池邊部会長) 必ずしもすかし剪定だけじゃないのですね。

(事務局) そうですね、それだけではない部分もあります。

(若林委員) 一般的な表現が多いので、具体的なイメージが湧きづらい。事業の説明の中でも、例えば「効果的な場所」という書き方されていて、何が効果的なのがわからない。だから例えばまちの美観向上に効果的な場所にとか、もう少し丁寧な表現を使ったほうが読者はわかりやすいかなという気がしますね。

(長瀬委員) 街路樹に戻りますが、街路樹の樹種を選ぶのは、土木事務所ですか。

(事務局) 新しく植えるのは、道路局の事業でやるのがほとんどです。街路樹の植栽基準がありまして、それに基づいて樹種の選定はしています。

(長瀬委員) いつも見ている、すごい大きくなる木を選ぶと、絶対電線とぶつかると思うだろうなと思っています。土の量と木のバランスも、土の量が少ないところなのに何でこんなにいっぱい植えるのだろうと思いながら通るのですよね。何となく画一的ですけど、それに関しては道路局が決めているのですね。

(事務局) 環境創造局を緑政局と言っていた時代には、緑政局である程度、街路樹を植えていた時代もあります。あとは開発行為に伴って、道路や宅地をつくるのにあわせて道路も作り、そのときに街路樹を植えているというケースも結構ありますね。昭和30年代から40年代ぐらいは、横浜も開発の圧力が非常に強くて、そのときには開発事業者が街路樹を植えたりしている場合があります。当然、どういう街路樹にするかは横浜市と協議して決めます。そのときにはやはりもともとあった緑を切り崩して宅地にして、道路をつくり、街路樹を植えていたので、成長が早い木や、この頃は公害が問題でしたので、大気汚染に強い樹木を選んで植えていたので、どうしてもかなり大きくなる木を植えてしまっていたりとか、樹木の間隔も狭めて植えていたりということがありました。

最近の街路樹の選び方としては、比較的コンパクトな樹木を選ぶという傾向はありますので、その時代、時代で街路樹の樹種も変わってきています。

(池邊部会長) 私は、3年前に国土交通省の道路局の道路緑化基準を変えさせていただきました。足元にオオムラサキや、アベリアなどが繁茂していると、ベビーカーや自転車のときに非常に不便だったり、あるいは根上がりもそれによって余計ひどくなったりしている場合もあります。そこで国では既に、グラウンドカバープランツも、横断防止の柵がある部分など、場所によってはいいという基準に変えています。なかなか国が変えたからといって、すぐに県や市道のところまでは、なかなかおいてこないとは思いますが、ただ、順々にそういう形では変わってきているのだと思います。

あと間引き等につきましても、例えば横浜の場合ですと、港北ニュータウンなど植えた木は、緑や緑道が多くなるようにと沢山植えてくれたものが、大きくなって重なり合ってしまったり、公園と隣り合ったところに街路樹があって暗くなったりしてしまったりしている部分もありますので、そういうところについても適宜変えていくような方向性になってきています。両方とも道路局がやっていますので、徐々に道路局の意識も変わってくるのかなと思います。

(長瀬委員) うちの近くにもあった梅が、ウイルス防除のため一気になくなった夏は、とても暑かったんですけど、ちょっと高めの新しいのが植わったら木陰になるので、見た目も涼しさも違うだろうなと思います。

(池邊部会長) 桜やケヤキも、余り大きくならないような街路樹用の品種が開発されていますので、少しずつ変わってきています。

	<p>(若林委員) 基本的なことですけど、みどりアップ計画での街路樹の事業は、道路局の事業の上乗せだとおっしゃっていましたね。その上乗せする基準はどのようなものなのでしょう。</p> <p>(事務局) 基本的な考えとしては、剪定の頻度をベースにしていて、道路局では基本的な剪定の予算を持っています。それに例えば1回の剪定費用が追加できるような形をとっています。年1回剪定していたものを2回にするなどです。</p> <p>(池邊部会長) あとは機械でバリカンのように切っているのを、それをもう少し丁寧な剪定をするなどです。</p> <p>(池田委員) 全体の中で1回やっていたものを2回にするではなく、沢山ある路線の街路樹のうちの1か所だけを年に2回にするくらいですよ。どこで使われたかはわかるの。</p> <p>(事務局) どこで使ったかは把握しています。メリハリをつけた執行をお願いしていて、市民の目に触れる機会の多い路線を優先的に使ってほしいとお願いしている。</p> <p>(池田委員) だけど、それで確かに変わりましたねってわかるのかな。そこまでわからないのでは。</p> <p>(事務局) それをわかるようにできるよう、なるべく工夫はしようと考えています。やはり経年的な変化を追っていくのがいいのかなと思っていて、5年たったら、こんな感じに変わりますよというのを見せられるような工夫はしたいなと思っています。</p> <p>(池田委員) だから目立つような、みなとみらい地区のこの路線の街路樹はみどり税のおかげでいつもきれいになっているよといったほうが良いと思う。</p> <p>(事務局) 確かにそのとおりだと思います。この報告書では、剪定にこういう効果があったというのをちゃんと言葉でも伝えて、植物的にはこっちのほうが健康でいい状態ですというところを示した方がいいですね。</p> <p>(池邊部会長) 取組名の「いきいきとした」は、健全に美しく伸ばすという意味だと思うのですが、そこが余り通じないと、逆に切ってしまった状態がいいのかという誤解を呼んでしまうということでは否めない。</p> <p>(池田委員) 強剪定は造園屋さんにとっては楽なのです。バサッとチェーンソーで切っちゃえばいいから。枝すかしで丁寧に木を見ながら、やるほうがすごい手間がかかるね。</p> <p>(池邊部会長) すかし剪定はちゃんと技術を持っていることを申請している業者さんじゃないといけないので。</p> <p>(池田委員) 業者さんもそうだけど、道路局の監督する職員にその技術がないと、植木屋さん任せになってしまうから、道路局の技術者の技術アップもしていただきたいなと思うんですね。</p> <p>(池邊部会長) 苦情を言う市民の方がいらっやって、そのために伐採することが多いですよ。</p>
--	--

(池田委員) 昨今、台風などによる災害が多くなっているから、夏に緑が多いようにと言っていると、今度、強風で木が倒れて、車に当たってしまって事故になるというのもあるし、いろいろ問題があって難しいところなのですけどね。

(池邊部会長) 報告書においては、できる限りで構いませんので、一般市民の方がどういうところに実際お金をかけて、それを何のためにお金を使っているかが少しわかるような形にしていただければ。例えば、今、池田委員がおっしゃったように、台風の時も、すかし剪定であれば大丈夫なので、そういうようなことも、ただ美しいというだけではなく効果があると、わかるように書かれているといいですね。

街路樹についてはこれでよろしいでしょうか。

地域緑のまちづくりについてはいかがでしょうか。

(池田委員) 2月の全体会議にときに私が指摘した写真はどうなりますか。

(事務局) 今後、青々とした時期の写真を用意して差し替えます。

(池邊部会長) ほかにお気づきの点、ございますか。

(長瀬委員) 全国都市緑化フェアを取り上げているのは、都心臨海部の緑花の成果を伝えるために、たまたま緑化フェアも重なっているということですよ。

(事務局) 都心臨海部での緑花の成果をうまく活用しながら、全国都市緑化フェアをやったということです。

(長瀬委員) 緑化フェアの成果を載せるのだったら、里山のほうの雰囲気も欲しいなと思ったんですけど。

(事務局) 里山ガーデンはみどりアップ計画とは別です。緑化フェアの成果はコラムというような形で取り上げます。

(池田委員) これからもみどり税使って、都心臨海部については維持していこうという形ですか。

(事務局) 維持管理もそうですね、整備についてもみどり税を使っています。緑化フェアのときも使うのですが、横浜市の財産としてずっと残るものについてはみどり税も使ってやらせていただいている部分があります。

(池邊部会長) 地域緑のまちづくりの写真ですけど、緑が増えたのは分かりますが、見る人によっては、個人宅に使っているように見える。本当は、公開性があるところで、ここがまちの中のポイントになっているので、その説明がないといけない。

(事務局) 地域で取り組んでいて、連続してつながって行って、街並みをつくっている取組なので、本来はそのつながりがみせられる写真が用意できればいいのかなと思います。ただ、年度をまたいで取り組んでいたりするので、なかなか連続したものが見せられないということもあります。緑のまちづくりとして緑がふえている形を見せるような工夫はしたいとは思っています。

(若林委員) キャプションの表現も工夫した方がいいですね。

(池田委員) 全てみどり税で植えたわけではなく、補助で何分の1とか、そういう形ですよ。

(事務局) 基本的にはそうです。自己負担分もあります。

(池田委員) ですよ、その辺が誤解のないように。

(池邊部会長) 資料1の説明をお願いします。

(事務局説明)

(池邊部会長) では最初に施策1についてですが、民有地における緑化の助成について、これは屋上緑化などの助成をしているものですが、目標を下回る助成件数になっているということです。一方、人生記念樹については浸透してきたという評価が続いているようですが、施策1についてはいかがでございますか。

(長瀬委員) 鶴見区の高校跡地は、報告書を公表するころには完成するということですか。

(事務局) 写真にあるように、まだ苗木が小さいので、緑豊かな公園とは表現しがたいところですので、4月以降に緑になっているところを確かめて、写真も撮りに行く予定です。

(池田委員) 小さなことですが、報告書内の「緑化」という言葉が、いわゆる普通の緑に化かすの字を使っているのですが、都心臨海部の緑花は、緑に花という言い方している。これは何か意図的に使っているのですか。

フェアの成果のイメージ案の中は、「フェアでは横浜みどりアップ計画で今まで取り組んできた都心臨海部の緑花」と、ここも緑、花になっているのですが、これは意図的なものですか、単なる緑に化かす、どっちですか。

(事務局) 意図的に使っています。特に都心臨海部の場合は、やっぱり花の要素が大きく、にぎわいづくりや、魅力づくりでは「緑花」を使っています。「緑花」は、我々が花も強調して表現しようということをつくった造語なので、それについては解説を、注釈で入れておかないといけません。

(池田委員) では、どこかに説明を入れていただきたい。

(若林委員) 施策1の評価で、「東京など都心部でも同様の状況だと聞いています」というのは、これは言いわけのように聞こえるので、現実的な目標値に変えるのか、あるいは制度を見直して、もう少し使いやすいものにするという内容を書けばいいと思う。また、「より多くの市民が緑化を実感できる制度」にするというのは結構大変で、むしろこの制度を利用する市民とか、企業が利用しやすいとか、使いやすい制度に変えていくということを行った方がいいのではないかと思います。

(池邊部会長) 例えば企業だとすれば、就業者が出られるようなルーフトラスなど、いわゆる屋上だけではない場所や、大規模商業施設

など、公開とかを促せるような場所に、ということだと思います。

(若林委員) 目立つようなという感じで、そういう意味ですね。なるほど、それでしたらわかります。

また、最後の街路樹事業で、「より主要な路線を中心に」という書き方していますが、より主要な路線はどういうのかよくわからない。ここは道路局と一緒にやっていくわけですよね。市民の目に触れる機会が多いので、道路局ともしっかり連携とりながら、あるいは住民ニーズもちゃんと組み込みながらやっていきますといった言い方のほうがいい。

(長瀬委員) 私としては、主要な路線を中心じゃなくていいと思います。どちらかといえば若林さんが言ってくださったような、道路局と連携をとってやっていただきたい。主要な道路だけだと、私が住んでいるところに整備は来てくれないのかなと思ってしまうので。

(池邊部会長) せっかく市民の目に触れる機会が多い取組なので、という前提があるんだとすれば、市民のニーズを取り込みながら道路局と一緒に進めていくという内容がいいでしょう。

(若林委員) あと下から4行目に「エリアや」と書いてあるのですが、少しわかりにくい。

(事務局) 緑が少ない5区でやっていることを、エリアと表現しました。

(池邊部会長) 緑の少ない地域ですね。

(長瀬委員) 公共施設とかの緑化は、自分の中ではまだすごく実感しているとは、正直言えない部分はあるのですが、今後も率先してやっていっていただきたいなと思うので、ここはぜひよろしくお願いします。

(事務局) はい、おっしゃるとおりです。

(池邊部会長) では、施策2についてはいかがでしょうか。

(長瀬委員) 取組27の写真ですが、上段の写真は子供で、下段は大人が管理者として聞いているのはわかるのですが、ちょっとどちらも芝生となっているのがもったいないので、視覚的に施工前と施工後で緑の量がかわっているとわかるようになるのでしょうか。

(池邊部会長) ビフォーを小さくして、アフターがちょっと大きいぐらいであればどうでしょうか。

(長瀬委員) 載せられそうですかね。これだと、両方芝生なので、何かぱっと見として。一応言葉で育て方の講座で、上は子供のいる保育園は言葉ではわかるのですが…。

(池田委員) 下の写真の育て方講座をやっているということが、継続性がある取組ですよという意味で重要なんですよね。芝生の管理は大変ですから。

(池邊部会長) 今、写真の話でしたが、施策2の評価についてはいかがでしょうか。

(長瀬委員) 学校のビオトープの維持管理が難しいという話は聞きます。担当していた先生が異動したり、子どもも卒業したりすると、続かないことも多い。維持の大変さを評価の中に入れるのは難しいですが、やりたい学校がふえていくのはすごくうれしいなと思います。いいものなので、続けてほしいなと思っています。

(池邊部会長) 事務局とは議論していないのですが、私は、みどり税でできることは全体の中の一部だと思うので、マッチングファンドではないですが、ビオトープつくるところまでは支援して、校長先生がかわられたり、PTAの方の意見とかでどんどん変わってしまうけれども、その活動を企業さんが支援するような、そういう形もそろそろ今後はやっていったほうがいいのかなどと思っています。

今までの生物多様性のような話より、SDGsはまさに企業さんによっては環境教育ではなくて、あれは道徳で教育すべきだという言葉のみずからおっしゃる方もいらっしゃいまして、非常に私たちが考えている以上に企業の方は意識してらっしゃるのですね。とてもやりやすい支援の仕方なので、今後の話ですが、みどり税で整備して、足りない部分は企業などでやっていただくというのは考えられる話かなと思います。ビオトープって本当に維持が難しく、理解を求めることも難しいので、蚊の話が出てきたりしてしまうと、消毒液を流して終わりになってしまったりします。

(池田委員) 戸塚の事例で、その学校を卒業したOBたちがずっと面倒見ていると成功しているところもあります。

(池邊部会長) そうですね、そういった形が一番望ましい。

(長瀬委員) ビオトープは、子供が実際に触れたり、つくったり、感じることができやすいかなと思っています、もちろん本当、街路樹とかも大事だし、花壇があることもすてきだなと思うんですけど、実際に触れられる活動が身近な緑としてあってもいいなと思います。

(池邊部会長) 評価には、子供の教育の観点からも意義があると言えますと書いていますね。

施策2の最後の評価ですが、今後もこの事業が横浜の魅力向上に寄与することを期待しますというだけじゃなくて、何か市民の誇りになってという一言を入れていただけるといいと思います。

(池田委員) 先ごろどこかのランキングで、住みたいまち1位が、今までは吉祥寺と恵比寿だったのが、3位だった横浜が今回、一躍1位になった。横浜の魅力って何だろうといったときに、花と緑が豊富だった、去年の全国都市緑化フェアの効果が絶大にあったのではないかなと、私としては思います。

(池邊部会長) そのつながりで、このフェア成果のページのイメージ案はいかがでしょう。



(若林委員) 最後のところは、「新しいライフスタイルをつくり上げた」はちょっと言い過ぎかなという。次につながる環境先進とか、SDGsとか、それに向けて行政だけではなく、市民と企業が一緒になって取り組んでいきましょうみたいな、提言的な話をしてあげるといいのではないかなという気がします。これでは、もう達成したという言い方になっている。

(池田委員) まだこれからも継続して向上に努めます、のようなね。

(池邊部会長) この委員コメントのところはどうでしょう。「この取組では市民生活全体の質を上げていますし、教育の質も上げています」ここは何かちょっと伝わりにくいですかね。

(長瀬委員) 学校と一緒に植えたのですよね。

(池邊部会長) 子どもたちの緑や花に対する意識もアップしたということですね。

(若林委員) そのくらいがいいんじゃないですかね。

(池邊部会長) あとは最後の「広く市民に還元する」というところは、還元するだけではなく、やっぱり自分たちもやっていくという部分につなげてほしいかなと思います。

(若林委員) みんなでやっていきましょうという話ですね。

(池邊部会長) そうですね、市民税を払ったから、市が勝手にやってくれるというのではなくて、市民税を払うことへの責任は、自分たちもその一員なのだという意味が少し入るといいかなという気がします。あと、ハイライトのほうですが、いかがでしょうか。

(事務局) 昨年度は、横浜市域の地図に、地域緑のまちづくりをどこでやったというのを入れていましたが、コメントと事例を主体にそれぞれのハイライトを書いたらどうかというのがこの今回のものです。

(池田委員) 地図も捨てがたいな。

(長瀬委員) 今回は都心臨海部じゃなくて、幼稚園、保育園、小中学校になったのですね。

(事務局) そうですね。先ほどの都市緑化フェアのページもちょっとコラムで別につくるということもあるので。

(事務局) 地図だと、市内でこんなにあちこちでやってますよという見え方ができると思います

(若林委員) 地図はあったほうが良いような気がします。

(池邊部会長) オール市民からすると、どこにお金が実際に落ちて、何が行われているのだろうというのがわかったほうが良い。

(池田委員) 我が家からは遠いけれど、隣の区では何かやってくれているなどという。

	<p>(事務局) 今の地図ですけど、新しくつくったところは星印になっていて、現在活動中が赤で、市との協定として、支援が終わったところは一応灰色になっています。</p> <p>(池田委員) 協定終了地区は、それでもう緑がなくなるのではなしので、灰色だと終わってしまった感じがする。</p> <p>(事務局) その表現は工夫します。</p> <p>(池邊部会長) こんなに手厚いスタートアップやっているところは日本全国でないですからね。</p> <p>(池田委員) そうですよ。</p> <p>(池邊部会長) いろんなバリエーションも出てきましたしね。</p> <p>(事務局) そうですね、おもしろいです。</p> <p>(池田委員) それを見て、またほかの人が、じゃあうちも、うちもということになるんだと、相乗効果としてはいいと思います。</p> <p>(池邊部会長) それでは、ちょっと折衷案で、地図の灰色の印は濃い緑色などに替えていただいて、ビフォーアフターの写真も入れて、保育園等の緑の創出の内容も入れていただくと、非常に贅沢な要望出しまして、このハイライトのところは終わりたいと思います。ほかはよろしいでしょうか。それでは、施策1と施策2の変更については、私のほうで責任を持って確認させていただきます。 ありがとうございました。</p> <p>(事務局) 本日は非常に活発なご議論、ご意見ありがとうございました。これにて市民推進会議の「緑をつくる」施策を検討する部会は終了といたします。どうもありがとうございました。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>次第 資料1 横浜みどりアップ計画市民推進会議 平成29年度報告書(案)【抜粋】 資料2 横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)平成29年度事業目標及び進捗状況[平成29年11月末時点]</p>